

平成27年度国際言語文化アカデミア事業計画に対する事前評価

平成27年 5月29日

神奈川県立国際言語文化アカデミア外部評価委員会

国際言語文化アカデミアは、多文化共生社会の実現に向けて、「国際社会で活躍できる人材の育成」、「外国籍県民がくらしやすい環境づくり」及び「県民の多文化・異文化理解の推進」を3つの使命として、平成23年度から講座を開講してきました。

昨年、平成24年に決定した県の「緊急財政対策」の一環として、他の出先機関同様、国際言語文化アカデミアも、県として今後の方向性を判断することになり、平成25年度までの3年間の事業展開のもとに、その機能や組織・運営面について、外部の有識者による機関評価が行われました。

その結果、今後の事業展開に当たっては、国際言語文化アカデミアの専門性を多文化共生社会の実現に向けてより一層活用していくため、県の果たすべき役割と限られたマンパワーを踏まえ、異文化を理解しつつコミュニケーション能力を有する、より実践的、中核的な人材育成の機能を強化することとし、現行の3つの使命を継承しつつ、事業の見直し、再編成を実施することになりました。

- ・「国際社会で活躍できる人材の育成」では、単に外国語が話せるだけでなく、異文化理解・多文化共生の意識も併せ持ち、国際社会で活躍する人材を育成
- ・「外国籍県民がくらしやすい環境づくり」では、単なる会話中心の日本語教育から、生活場面での日本語の運用、生活習慣や文化など日本社会の理解に加え、出身国との文化の違いも理解した支援を拡充
- ・「県民の多文化・異文化理解の推進」では、選択と集中の観点から、従来の多文化共生意識の醸成のための手法を見直し、異文化を理解しつつコミュニケーション能力を有するボランティアなど、地域で活躍する中核的な人材育成に再編

今回、外部評価委員会では、平成27年度事業計画に係る事前評価を行うに当たり、こうした機関評価に伴う事業の見直し、再編成がどのように事業計画に反映されているかを主眼に、受講者からのニーズや県民ニーズも考慮し評価を行いました。

この評価を基に、平成27年度のアカデミア実施講座がより充実したものとなり、神奈川県における多文化共生社会の実現に寄与することを願います。

総括

平成27年度から一部の事業を再編していくことになりましたが、グローバル化の進展に合わせ、県民ニーズに叶った魅力ある講座を編成することが国際言語文化アカデミアの変わらぬ使命であると考えます。今後とも、組織全体として使命を果たしていくとともに、教員一人ひとりが、使命に対する高い意識をもって国際言語文化アカデミアならではの専門性を活かして事業展開していくことを期待します。

- ・外国語にかかる教員研修事業は、長期的に見て、児童・生徒の英語力向上につながる重要なものであり、着実に実施してきています。県教育委員会など関係機関と連携しつつ、ますます発展させていくことを期待します。
- ・外国籍県民等の支援事業は、日本語教育に止まらず、外国籍県民等が地域社会とつながることを目指す講座を増設しています。地域のNPOなど関係機関と連携しつつ、さらなる充実を期待します。
- ・新たに取り組むコミュニケーション支援ボランティア養成事業については、外国人観光客や生活者を支援するボランティア活動が今後重要になる中で、是非、アカデミアの専門性を発揮し、効果的なボランティア養成を進めていくことを期待します。

以下、それぞれの事業について意見を述べます。

1 外国語にかかる教員研修事業

専任の教員が高い専門性を有して、継続的に外国語教員研修を行うことのできる国際言語文化アカデミアの存在意義は大きいものです。これまでに、教育センターとの棲み分けもできており、研修の内容についても、現場の教育実践に関する調査研究、言語教育に関する基礎研究に基づく、専門的かつ実践的な質の高いものとなってきています。

今後とも、アカデミアの研修を充実させることが神奈川県英語教育のために重要であると考えます。

<英語担当教員研修>

次の点を研修講座に採り入れていくと良いと考えます。

- ・言語を習得する上で、音声をインプットすることが重要です。学校の授業でリスニング活動を効果的に行えるよう、それに役立つ教材の知識や作り方を教師が習得する必要があります。
- ・「論理的思考力」は「課題発見」と結びつかないと生きてきません。例えば、異文化理解と言っても、ただ理解するのではなく、何かおかしいと思って自分で課題を見つけ、その解決方法を考えることで初めて力になります。身近なものを材料に、「グローバルな事柄は何かしらローカルな事柄と繋がっているはずだ」というアプローチをとって、生徒に発見させることが大切であり、教師にはそれができるようなトレーニングが必要です。
- ・英語で授業をすることについて、生徒のレベルによっては、英語だけで授業を進めるのではなく、母語を使用してメリハリをつけることで却って英語が生きてくることもあります。そうした教授法のヴァリエーションを教師が習得することが必要です。

<小学校英語活動研修>

次の点を研修講座の中で強調していくと良いと考えます。

- ・児童はセンテンスを聴きながら、その中で分かる言葉を拾って理解していきます。教師は簡単なものでよいので、間違えないでフルセンテンスで言うことが必要です。その日に使う表現を一つ選んで心をこめて丁寧に聞かせ、それ以外は無理に英語を使わないことが大切です。
- ・教師はややもすると回数を聴かせればよいと考えがちですが、児童は「聴く甲斐のあること」でないと聴きません。クラス担任の教師は、場の雰囲気をつくることや、児童にとって意味のある題材を用いることが上手なのですから、意味のある場に対応した「ことば」として、英語を聴かせることが大切です。

<研究>

- ・研修講座の授業実践への転移が研究テーマに挙げられています。科学研究費を獲得するためにも、例えば、ある授業手法が生徒の学びにつながったというような実証研究で分かりやすいアウトカムが示せるとよいと考えます。また、その際、教師が自分の授業改善の原動力になったのは何かというプロセスに視点を置くことも大切です。

2 外国籍県民等支援事業

外国籍県民等の支援事業は、日本語教育に止まらず、外国籍県民等が地域社会と「つながる」ことを目指して、講座の改編・新設を行いました。また、横浜駅西口のかながわ県民センター内の「KANAFANステーション」を活用して受講者の利便を図るとともに、広報に当たっては県関係部署や関係機関と連携して進めるという工夫がなされており、受講者の確保さらには増加が期待できます。

今後の講座展開に当たっては、アカデミアが有する教員の専門性や、これまで4年間の関係機関との連携関係を十分活かして、引き続きチャレンジを続けてほしいと考えます。

<外国籍県民等支援ボランティア養成講座>

- ・日本語ボランティア入門講座について、毎年応募者が多く、クラスを増設するなどしている実績に応じ、限られたマンパワーの中で開講数を年2回から年4回に増やしたことは、ボランティア活動実践への高いニーズに応えるものと考えます。
- ・作文添削講座について、外国籍県民の作文を添削する際、支援者が正しい日本語に全面的に書き直してしまうことがまま見受けられ、学習効果が薄いという実情を踏まえ、本人の記述と実力に沿った添削の方法を指導する実践的なもので、効果が期待できます。

<生活の自立を図るための日本語・日本社会理解向上講座>

- ・介護福祉士の資格取得に向けた講座について、平成26年度に多くの受講者があったという実績をもとに、専門職へのステップアップを目指す外国籍県民等のニーズに合わせて拡大強化していく方針をとったことは大変良いと考えます。また、福祉団体や県の担当部署と連携しつつ、行政機関の立場から広報していくことは、この講座を必要としている人に開催情報を届けるうえで高い効果が期待できます。
- ・地域社会とつながるための日本語講座について、内容は大変良いものと考えますが、アカデミアを会場として日本社会という抽象的な題目で行うのは、受講者の確保が難しいのではないかと考えます。外国籍県民と一口に言っても、その出身地は県内各地域で違いがあります。地域毎の実情やニーズを把握し、内容を設定していくとともに、外国籍県民の受講はロコミが主流ですので、地域にまめに足を運ぶなど、きめ細かな広報により一層努めてほしいと考えます。

<研究>

- ・A4シート1枚のビギナー教材を複数開発し、インターネットに掲載しダウンロードできるようにすることが計画されており効果が期待できます。同様に、病院受診のための講座などアカデミアで行う講座内容を教材化してダウンロードできるようにすることも検討すると良いと考えます。

3 異文化理解支援事業

異文化理解の推進にかかる事業については、従来の多文化共生意識の醸成のための手法を見直し、異文化を理解しつつコミュニケーション能力を有するボランティアなど、地域で活躍する中核的な人材を育成する方向で再編されました。

平成27年度からは、成人向けの、単なる会話ではないボランティア活動に向けての社会的な語学講座を展開することが目標となります。そのためには、目指すボランティア活動はどのようなものか、それに必要なコミュニケーション能力はどのようなものか、ボランティア活動を促す講座とはどのようなものか、開講までに引き続き内容を深める必要があります。

国際言語文化アカデミアの専門性を十分活かして、独自の講座展開、研究活動を進めてほしいと考えます。

<コミュニケーション支援ボランティア養成講座>

- ・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会への対応は重要なことですが、長期的には、大会が終わった後にどのようなボランティアの育成を目指すのかが課題であると考えます。その場合のコミュニケーション能力は、ある程度オリンピック・パラリンピックに限定されない能力が必要になってくると想定されます。実際のボランティア活動とそれに必要なコミュニケーション能力のマッチングが大切です。
- ・新規受講者の募集をどうしていくか、また、当面、これまでの受講者も対象として参加を促す場合、その人達のモチベーションを活かしていくためには、できる限りこれまでの学習が生きるようなオリエンテーションが必要になってきます。
- ・受講者をボランティア活動につなげていくために、講座プログラムの中でどう工夫するか、講座修了者にボランティア登録を条件とする場合、講座修了後の実践活動につながるような講座プログラムをどう設定するか、今後とも検討を進めることが重要です。

<行政職員コミュニケーション能力向上講座>

- ・この講座は実践的なサポートをするものであり、行政職員研修担当部署との連携・分担のもと、現場のニーズに合わせて講座プログラムを柔軟に調整していくことが必要になります。その中で講座のヴァリエーションを蓄積しブラッシュアップしていくと良いと考えます。

<青少年向け異文化理解・コミュニケーション能力向上講座>

- ・この講座は高校への出前講座で、これまでの異文化理解を深める講座に加え、英語によるコミュニケーション能力を高めるためのプレゼンテーションなどの講座を行うことになっており、さらに充実していくことを期待します。

<研究>

- ・コミュニケーション支援ボランティア養成講座の新設に伴い、ボランティア人材育成の目標に沿った、新たな独自の教材を用意することが計画されています。一般的な英会話の教材というよりは、初級から中級の間くらいのレベルで実際にボランティア活動を行う人を対象とした教材研究は、自治体レベルでもあまりなされていないと思います。また、成人の語学講座について、媒介言語を英語で行う事例の研究というのはあまり行われていないようです。是非、独自の研究として推進してほしいと考えます。

1 国際言語文化アカデミア外部評価委員会設置目的

国際言語文化アカデミアが実施する多文化共生社会づくりへ向けた各種講座について、より効果的・効率的な事業推進を図るため、講座内容や実施方法等に関し、外部の有識者で構成する外部評価委員会を設置し、事業評価を実施する。

2 外部評価の手法

(1) 事後評価

各講座で実施したアンケートによる受講者評価及び講座担当教員が行う自己評価に加えて、一部講座の視察結果等を踏まえ、講座内容や実施方法等について評価を行う。

①受講者による評価

各講座受講者を対象に、受講後、講座に対する満足度や感想、要望等について自由に記入するアンケート調査を実施

②自己評価

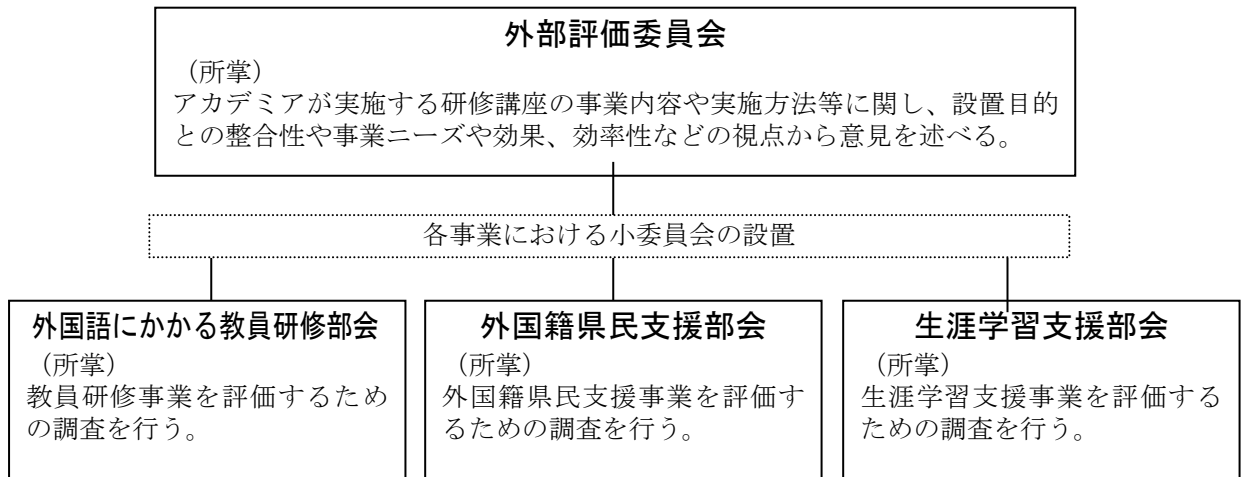
①の受講者による評価結果を踏まえ、講座を担当した教員が、自分の実施した講座についての自己評価を実施

(2) 事前評価

次年度実施予定講座について、外部評価委員会での事後評価結果等を踏まえ、講座内容や実施方法等について評価を行う。

3 外部評価委員会の構成

次のとおり、外部評価委員会と3つの小委員会から構成される。



4 外部評価委員

第2期委員（任期：平成25年4月1日～平成27年3月31日）

(50音順)

氏名	役職等	所属小委員会
安部 晋弘	(公社)青年海外協力協会あーすぷらざ館長	外国籍県民支援
石部 裕通	(一社)神奈川県経営者協会専務理事	外国籍県民支援
稲田 素子	立教大学文学部教育学科兼任講師	生涯学習支援
粕谷 恭子	東京学芸大学教授	外国語教員研修
○佐藤 公明	公募委員	生涯学習支援
田近 裕子	津田塾大学教授	外国語教員研修
服部 孝彦	大妻女子大学教授	外国語教員研修
丸谷 士都子	NPO法人地球の木理事長	外国籍県民支援
◎渡邊 慎介	(学)関東学院常務理事	生涯学習支援

※ ◎委員長 ○副委員長

5 外部評価委員会による評価結果

(1) 事後評価

- ・平成23年度実施事業(4月～9月)に対する評価 平成23年12月19日公表
- ・平成23年度実施事業(10月～3月)に対する評価 平成24年11月30日公表
- ・平成24年度実施事業に対する評価(本評価) 平成25年6月28日公表

(2) 事前評価

- ・平成24年度事業計画に対する事前評価 平成24年3月30日公表
- ・平成25年度事業計画に対する事前評価 平成25年2月28日公表
- ・平成26年度事業計画に対する事前評価 平成26年3月7日公表
- ・平成27年度事業計画に対する事前評価 平成27年5月29日公表

6 外部評価委員会の開催状況

(1) 外部評価委員会

- 第1回 平成23年8月1日(月)
- 第2回 平成24年2月1日(水)
- 第3回 平成24年7月1日(日)
- 第4回 平成25年1月21日(月)
- 第5回 平成25年5月23日(木)
- 第6回 平成26年1月23日(木)
- 第7回 平成27年3月21日(土)

(2) 小委員会

ア 外国語にかかると教員研修部会

- 第1回 平成23年8月1日(月)
- 第2回 平成23年9月7日(水)
- 第3回 平成24年2月1日(水)
- 第4回 平成24年7月1日(日)
- 第5回 平成24年9月12日(水)
- 第6回 平成25年1月21日(月)
- 第7回 平成25年5月23日(木)

- 第8回 平成25年8月1日(木)
- 第9回 平成26年1月23日(木)
- 第10回 平成27年3月21日(土)

イ 外国籍県民支援部会

- 第1回 平成23年8月1日(月)
- 第2回 平成23年9月17日(土)
- 第3回 平成24年2月1日(水)
- 第4回 平成24年7月1日(日)
- 第5回 平成24年9月18日(火)
- 第6回 平成25年1月21日(月)
- 第7回 平成25年5月23日(木)
- 第8回 平成25年7月18日(火)
- 第9回 平成26年1月23日(木)
- 第10回 平成27年3月21日(土)

ウ 生涯学習支援部会

- 第1回 平成23年8月1日(月)
- 第2回 平成23年9月3日(土)
- 第3回 平成24年2月1日(水)
- 第4回 平成24年7月1日(日)
- 第5回 平成24年9月29日(土)
- 第6回 平成25年1月21日(月)
- 第7回 平成25年5月23日(木)
- 第8回 平成25年9月21日(土)
- 第9回 平成26年1月23日(木)
- 第10回 平成27年3月21日(土)